令和７年度　学校評価　品川区立鮫浜小学校

評価項目１　学力に関すること

重点目標	（1）学習規律の徹底を図る。～学習規律（チャイム着席、あいさつ、学習準備、学習態度、ノート指導、iPadの適切な使用等）について全教員で共通した指導を行う。 （2）基礎的な知識、技能習得のため、帯時間、放課後、未来塾、家庭学習（自己調整学習）等を実施し、補充学習の充実を図る。 （3）タブレット、ICT機器等を効果的に活用し、ESD、自由進度学習、プロジェクト学習に取り組むなど学習活動を工夫し、学習意欲の向上を図る。

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	基本的な学習規律（チャイム着席、学習準備、学習態度、ノート指導、iPadの適切な使用など）について9割以上の児童が身に付いている。	基本的な学習習慣は、児童アンケートの結果によると9割以上、教員アンケートでも9割の児童が身に付いている。ただし、iPadの適切な使用に関しては、9割を下回る。	B	チャイム着席や学習準備などについては、殆どの児童が身に付いているが、iPad使用のルールに関しては、守れない児童が1割程度いることが課題である。 学級指導、全校朝会での指導、保護者への連絡など、繰り返し指導していくことで、iPad使用ルールの徹底を図る。
	教師は、学習規律を定着させるよう学校共通の認識をもち、意識して、適切な指導を行っているか。 （学習環境の保証）	「さめはまのきまり」や教室掲示を活用し、全教員が共通の認識をもち、適切な指導をすることができた、	B	
②	区の学力定着度調査の結果が昨年度より向上しているか。または、全国平均を上回る事ができたか。	区の学力定着度調査の結果は、昨年度とほぼ同等である。全国平均と比較すると、ほぼ同等か上回ることができた教科もあった。	B	昨年度、全国平均と比較し、同等か若干、向上している。しかし、期待したほどの伸びはみられなかった。児童にとって授業が受け身であることが課題である。 今後、iPadを活用した個に応じた指導や個々の理解の速度に合わせた単元内自由進度学習など、児童が主体的に学習に向かうことのできる授業展開を工夫していく。また、OJTや校内研究を通して、全教員の指導力向上を図る。
	教師は、学習の基礎となる力の育成に計画的に取り組むとともに、個に応じた指導方法の工夫・改善、補充学習の実施など、基礎力・活用能力の定着に努めているか。 （「基礎の時間」「帯の時間」「補充学習」等）	殆どの教師は、個に応じた指導方法の工夫・改善に努めていた。一方で、学習することに課題を抱えている児童が多く在籍している学級では、十分に対応できていなかった。	B	
	教師は、ICT機器、タブレット等の活用や思考・判断・表現等の資質能力の育成を目指した学習展開、ESD、自由進度学習、プロジェクト学習を取り入れた学習**方法**など、学習意欲や主体性を高める授業改善に取り組んでいるか。（主体的対話的で深い学び）	教師は、思考・判断・表現等の資質能力の育成を目指し、自分の考えを発表したり、友達との協働的な学びの場面を多く取り入れたりしていた。また、自由進度学習やプロジェクト学習を取り入れ児童が主体的に学べる授業展開を工夫していた。	A	
③	ほぼ全員の児童が「さめはま学習帳」を提出しているか。 それ以外の学習について、8割以上の児童が取り組んでいるか。	「さめはま学習帳」の提出は、児童アンケートの結果によると必ず提出していると時々忘れるを合わせると8割である。それ以外の学習についても8割以上の児童が取り組むことができている	A	「さめはま学習帳」は学習習慣を身に付けるための有効な手立てではある。しかし、それ以外の宿題となると提出率が下がるのは、宿題の難易度や量に課題がある。 今後、個別の学力に合わせた宿題や自分で考えて取り組む宿題（自己調整学習）など、教師側が工夫をしていく。また、宿題を「やればよい」にせず、取り組んだことへの価値づけをしていくため、宿題の発表などで取り組んだことを共有してく。
	教師は、「さめはま学習帳」を核に、家庭と連携して各教科の宿題、自己調整学習、タブレット課題等を、学年×10分以上を目安とした家庭学習に取り組ませているか。 （主体的な家庭学習習慣の定着）	「さめはま学習帳」の自己調整学習に関しては、取組状況は教師の声掛けによる差が大きい。取り組ませたことを発表するなど、工夫している学級もあった。	B	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立鮫浜小学校

評価項目２　人間性や社会性に関すること

重点目標	（1）「あいさつ」の意義を理解し、「あいさつ」することの大切さに関する指導の徹底を図る。 （2）「さめはまのきまり」を基に、「規則を守る」、「役割を果たす」等の項目について、発達段階に応じた指導を展開し、徹底を図る。 （3）市民科、各教科、校外活動等、あらゆる場面で相手の立場に立って感じたり、考えたりすることの大切さに気付かせるよう発達段階に応じた指導を行い、自発的・主体的に人間関係づくりや社会参加ができる児童を育てる。

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	「あいさつ」が身についているか。（「あいさつ」のアンケート項目について、9割以上の児童・保護者・教師が肯定的な評価をしている）	保護者アンケートでは、9割以上の保護者があいさつが身に付いていると回答している。児童アンケートでも9割があいさつができていると回答している。一方で、教員アンケートでは、8割の児童が挨拶が身に付いていると捉えている。	B	校内において、顔見知りの方々に対しては、あいさつができているが、初めての来校者や学校外での町会の方々にあいさつができない児童がいること、学校と日常生活との乖離が見られることが課題である。 学校での学びや取組と実生活が関連付けられるように、日常的な指導や啓発活動をしていくことが重要である。
	教師は、発達段階に応じて市民科の授業や日常の指導の中で、「あいさつ」をすることの大切さを理解させ、定着を図るための指導を実施しているか。（「あいさつ」の重点的指導）	「あいさつ」することの意義や「あいさつ」することの大切さを学校生活の様々な場面で指導することができた。特に市民科では、	B	
	教師は、児童会や学級で、児童が「あいさつ」に主体的に取り組むよう、工夫した活動を展開しているか。 （児童の主体的な「あいさつ」活動の実施）	学年によるあいさつ運動を実施したことで、主体的に「あいさつ」に取り組むことができるようになった。	B	
②	「規範意識」「役割意識」が身に付いているか。（「規則を守る」「係当番の役割を果たす」等の項目について8割以上の児童・保護者・教師が肯定的に評価をしている）	保護者アンケートでは、9割以上の保護者が「規範意識」「役割意識」が身に付いていると回答している。一方で、教師アンケートにおける回答では、6割しか身に付いていないと回答している。	B	「規範意識」「役割意識」が高い児童は多い。保護者アンケートでは9割以上、教師アンケートでは6割程度が、「規範意識」「役割意識」が高いと回答しており、この乖離が課題である。 「規範意識」「役割意識」について、保護者に保護者会や学校だよりなどで情報提供をする。「さめはまのきまり」については、保護者の理解も重要であるため、様々な機会で理解を促していく。
	教師は、児童の規範意識が身に付くよう、発達段階に応じた生活指導や市民科学習を通して「さめはまのきまり」を規準とした指導を進めているか。 （自律的な規範意識の育成）	殆どの教師は、発達段階に応じた指導をしているが、一部の教師の理解が十分でない場面が見られた。	B	
	教師は、児童会、委員会、縦割り班活動や学級の係・当番活動で、責任感や役割意識をもって主体的に行動し、自己有用感を高める指導を進めているか。 （主体的な役割意識の育成）	教師は、主体的な役割意識の育成に向けて、指導を進めてい	B	
③				

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立鮫浜小学校

評価項目３　体力・健康に関すること

重点目標	（1）品川スポーツトライアルやワンミニッツエクササイズなどを実践し、運動習慣づくりを進める。 （2）チャレンジジャンプ週間、菜の花ウォーキング週間、マラソン週間等を可能な範囲で設定し、体を動かす機会を設ける。 （3）健康の保持増進に関する啓発活動（「歯磨き」「手洗い・うがい」「ハンカチ・テッシュ携帯」「バランスのとれた食生活」等）を行い意識の向上を図る。

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	体力調査の結果が昨年度までの記録や全国平均と比較して上回ることができたか。	種目によって違うが、昨年度までの記録や全国平均と比較して、概ね同等か若干上回ることができた。	B	全学年で全国平均を下回ってるのが、握力である。 休み時間の遊びや体育授業における学習内容に握力を向上させる内容を組み込むなど、年間指導計画の見直しをしていく。
	教師は、課題に応じて指導計画を見直し、体育授業内容・方法の工夫、安全面の配慮など、体力向上のために工夫した授業改善を進めているか。 （課題に応じた授業改善）	体育主任を中心に、体育授業における授業改善に努めることができた。また、OJTなどを通じて、安全面の配慮についても全教員が意識できるようにしてきた。	A	
②	運動の日常化を図るために、日頃から意識して運動する児童を増加させることができたか。	体育の授業に限らず、休み時間や家庭学習で運動することを奨励したことで日頃から運動することを意識させることができた。	A	運動の日常化のために様々な取組をしてきているが、運動を得意としない児童への働きかけが十分でなかったことが課題である。 運動の日常化を図るために、運動を得意としない児童についても、日頃から繰り返し声掛けをしていく。また、保健指導の「健康について」などと関連させ、教科横断的な指導をしていく。併せて、保護者にも運動の重要性について保護者会などを通じて周知していく。
	教師は、児童が主体的に運動に取り組むよう、ワンミニッツ・エクササイズやスポーツ・トライアル、特色ある体育活動、休み時間の外遊びの推奨等を工夫し、計画的に実施しているか。（運動習慣の定着）	学校として組織的に様々な取組を計画的に実施することができた。特に、ワンミニッツ・エクササイズは宿題として出すなど運動の日常化に取り組むことができた。	A	
③	年間を通した保健指導により、保健衛生習慣が定着した児童を増加させることができたか。	年間を通した確実な保健指導が行われたことで、保健衛生習慣が定着したと言える。	B	殆どの児童は、健康の保持増進や衛生習慣について理解し、意識して日常生活に取り組むことができている。一方で、繰り返し指導してはいるが、指導が行き届かないことが課題である。 保健給食委員会において、衛生週間を意識する活動を新たに取り入れていく。歯磨きに関しては、手洗い場の混雑解消の手だてを講じながら、今後も取り組んでいく。
	教師は、健康の保持増進（早寝・早起き・朝ごはん、歯磨き、治癒率向上等）や衛生習慣（うがい・手洗い、ハンカチ・ティッシュ携行）を定着させる指導を進めているか。（健康意識・習慣の定着）	健康の保持増進や衛生週間の定着のため、朝の会、帰りの会での指導、市民科や体育での指導、ハンカチ・ティッシュ調べの取組など確実に取り組むことができた。	B	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立鮫浜小学校

評価項目４　いじめの防止の取組に関すること

重点目標	（1）市民科、各教科、校外活動等、あらゆる場面でお互いのことを尊重し、行動することの大切さに気付かせる指導を行い、よりよい人間関係作りができる児童を育てる。 （2）様々な人権問題について正しく理解させるとともに、あらゆる差別や偏見を許さない人権意識を高めていく。 （3）いじめ撲滅スローガン、いじめ防止授業など「いじめは、絶対に許されない」という意識を育てる取り組みを行う。 （4）デイケンやいじめDアンケート等を実施し、いじめの早期発見に努める。

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	「いじめは重大な人権侵害である」という意識をもたせ、自他の人権を尊重し、差別を許さない態度を育成する指導を、年間を通して計画的に行うことができたか。	いじめに限らず人権を尊重して指導を計画的に行うことができた	B	いじめに関する指導については計画的に実施できているが、いじめへの理解が十分でないことが課題である。 いじめとされる行為に関して、未然防止、早期発見、早期対応を組織的に対応していく。
	教師は、市民科学習や日常の学級指導などと関連付けて、人権教育の指導やいじめ防止授業を行っているか。 （未然防止の取組、人権意識の醸成）	教師は、いじめ防止授業を計画的に行うことができた。一方で、いじめに関する認識が十分でない場面もあり、初期対応に遅れがあった。	C	
②	早期発見のための取組を、計画的に実施することができたか。	早期発見のための取組は、計画的に実施することができた。	B	様々なツールや仕組みの活用で早期発見はすることができた。その後も丁寧に対応してきたが、解決までに時間を要する案件があったことは課題である。 今後は、外部機関との連携をこれまで以上に密にすることで早期解決を目指す。
	教師は、デイケンやいじめDアンケートの結果や教育相談活動、校内巡回等を通して、いじめの未然防止、早期発見、児童のいじめに対する意識の変容に努めているか。	様々なツールや仕組みを活用し、いじめの未然防止や早期発見に努めることはできた。しかし、いじめによる不登校児童が出てしまった。	C	
③	いじめ発生事例について、すべての事例について組織的対応を行うことができたか。	生活指導夕会やいじめ対策委員会の開催など、組織的に対応することはできた。	B	いじめ発生事例について生活指導夕会での報告などをしてきたが、学級対応でとどまっている案件があったことが課題である。 担任だけで解決しょうとせず、迅速に組織的に対応することを教員に周知していくことを徹底する。いじめの疑いについて把握した場合は、可能な限り、その日に管理職まで報告することを徹底する。
	学校は、いじめの疑いがある事例が発生した時は、すみやかに組織的対応を行っているか。 （早期対応の取組）	いじめ疑いがある事例が発生した時は、即時にいじめ対策委員会を開催し事実確認、再発防止策について検討することができた。	B	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立鮫浜小学校

公開

評価項目５　（特色ある教育活動に関すること）

重点目標	（1）地域ボランティアによる地域学習、学習支援等を通じて、地域との繋がりを体験的に学び、誇りと愛着を育てる。 （2）ボランティア活動（花海道プロジェクト、銀杏募金活動等）への取組を通して、地域貢献を体験的に学ばせる。 （3）異学年交流班活動、東大井保育園との交流活動、地域の高齢の方々との交流活動、中学校体験活動、外部講師の方々の授業等を通して、多様な振舞い方を学ばせるとともに多面的なものの見方、考え方ができるようにする。（「潮風タイム」など）

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	地域ボランティアによる実技実習や地域学習、補習教室の補充授業等、学習効果を高めることができたか。また、校内外の活動見守り、あいさつ運動等により、安全で円滑な教育活動を行うことができたか。	地域ボランティアの協力により学習効果を高めることはできた。また、年間を通してあいさつ運動に取り組むことで児童の安全を守ることができた。	A	地域ボランティアの協力を得ることで教育の質の向上につなげることができたが、地域ボランティアの人数が増えないことが課題である。 地域ボランティア募集に関して、これまでの周知方法に加え、HPなどの活用も考える。
	教師はより良い授業をするためや児童の安全確保のためにCSボランティア等を意図的、計画的に活用しているか。（「学校支援地域本部」の活用）	学校支援地域本部による活動が充実しており、より良い授業づくりに役立たせることができた。	A	
②	「しながわ花海道プロジェクト」「銀杏募金」等を工夫し、行うことができたか。	「しながわ花海道プロジェクト」は計画的に実施することができた。「銀杏募金」は、募金活動とは切り離して実施することができた。	A	「しながわ花海道プロジェクト」は、計画的に実施することができたが、天候に左右される活動が多く、計画の変更を余儀なくされたことが課題である。 天候に左右されることは前提として捉え、余裕をもった計画をしていく。また、探究学習の本格実施に向けて、市民科部を中心に計画的に実施していく。
	教師は地域環境を生かした学習（探究学習）を行い、市民科一貫プラン「潮風タイム」の実施などを通して、児童の地域を愛する心や地域貢献意識を高める工夫を行っているか。（地域愛、貢献力の育成）	市民科部を中心に、市民科一貫プランの再構築をすることができた。探究学習についても、各学年で工夫して取り組むことができた。	A	
③	異年齢活動による目下への思いやりの心やリーダーシップ、目上への感謝の心を育てることができたか。	異年齢活動によって、豊かな心を育てていることができた。	A	異年齢活動は、活動場所や班編成によって移動が伴うため、軌道に乗るまでの期間、スムーズに活動できないことが多かったことが課題である。 1学期開始時の説明を丁寧にすること、活動場所や班編成を間違えないように、事前にipadに情報を送る、教室に縦割り班番号を掲示するなどの手だてを講じる。
	教師は、保育園交流、交流班活動、学年を越えた交流学習、クラブ・委員会・全校集会及び発表活動等を状況に応じて工夫し、意図的・計画的に実施しているか。（共生意識の育成）	交流活動は、年間計画に位置付け、計画的に取り組むことができた。	A	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成